

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局
 〒640-8314
 和歌山市神前 405-3
 TEL 073-473-2301
 FAX 073-473-2302
 発行責任者
藤本哲史

広島につづぎ、長崎で 被爆地で学ぼう

第61回全女

昨年、広島につづぎ、被爆地・長崎で部落解放第61回全国女性集会在5月14日・15日にひらかれ、県連女性部から38人が参加した。

前日の13日は4班にわかれて長崎平和フィールドワークをした。毎年8月9日の長崎原爆の日には平和式典がおこなわれる平和公園や長崎刑務所・浦上刑務所遺壁、松山町内唯一の生存者である9歳の少女が遊んでいた松山町防空壕跡を見学した。原爆落下中心碑に



原爆落下中心碑 この柱の上空約500mで原子爆弾がさく裂した



8/9に「平和記念像」前で平和祈念式典がおこなわれる

いき、71年前にこの柱の上空でプルトニウム型の原子爆弾がさく裂し、衝撃波と爆風、3,000度から4,000度以上の熱線が一瞬にして町を覆い多くの命を奪ったことを聞いた。長崎原爆資料館では、原爆の威力や原爆後遺症で苦しむ人びとについて展示されており、核兵器の怖さを学んだ。

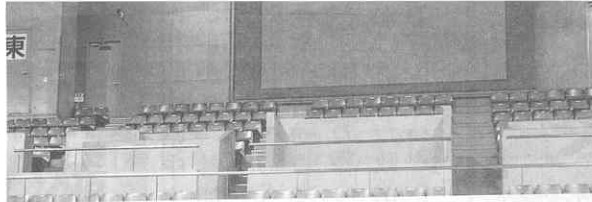


荊冠旗入場

14日は、長崎県立総合体育館全体集会がおこなわれた。中央本部を代表し西島藤彦・書記長は、熊本地震から今日で一か月となる。熊本・大分の仲間がたくさ

ん参加してくれている。3月の全国大会で「男女平等社会実現基本方針」を改訂し、そのなかで具体的目標を明記した。昨年の広島につづいて被爆地でひらかれた2日間、熱心な議論をもち帰ってほしいとあいさつした。

山崎鈴子・中央女性運動部長が基調提案をした。今年2月に国連女性差別撤廃委員会勧告や「男女平等社会実現基本方針(第2次改訂)」を学習し具体的にとりくむことや憲法改悪と戦争推進政策の阻止に向け、7月の衆議院選挙に全力を尽くそうと語った。和田献一・中央執行委員より「世界の人権状況と女性部運動の今後の課題」と題した記念講演では、部落差別や女性差別を引き起こしている戸籍制度について説明があった。緊急アピールとして組坂繁之・中央執行委員長が地震被害のとりくみ報告と「全国部落調査」復刻版販売阻止、「部落差別の解消の推進に関する法律」を国会



部落解放第61回全国女性



全女であいさつする山崎鈴子女性部長



第5分科会で司会をつとめた松井雅代さん



第2分科会で司会をつとめた井上百々代さん

の成立に向けてとりくみをすすめていることが報告された。

今回の「熊本・大分地方地震カンパ」を松永信子(熊本県連女性部長)と笠原クニ子(大分県連女性部長)に手渡した。

15日は7つの分科会にそれぞれ参加し、各都府県連の活動報告を聞き、議論した。

第62回全国女性集会是5月13日・14日岐阜県でひ

入れのタイミングがズレて苦笑いする映像がテレビで流れていたが、その首には生まれて初めてという「IDカード(身分証明)」が下げられていた▼さて、その「タイミング」だが、沖繩で起きた米軍関係者による殺人事件は、沖繩ばかりか日本中に怒りと憤りが走った。さらに許せないのは政府関係者の「タイミングが悪すぎる」という発言だ。サミット直前なのにと言いたいのか:「じゃあ良いタイミングなんてあるのか」と聞き返したい。翁長知事が「沖繩は差別されている」と発言してきているが、これが沖繩が置かれている現実である。それにしても政府関係者の発言は許しがたい発言だが、これが沖繩に対する政府や自民党の本音なんだろうと思ってしまう。サミットの前後の記者会見で、安倍首相やオバマ大統領が何度も「再発防止」と言っていたが、沖繩の返還以来、事件が起きるたびに繰り返されてきた言葉だ▼サミット後、現職大統領として初めてオバマ大統領が広島を訪ねた。注目されたコメントは、責任や立場の曖昧さがあるものの「平和」「核の廃絶」を柱に、人類の未来に向けたメッセージだった。(S・I)

頑健

街は、もう夏の装いである。さて先日、伊勢志摩はサミットで沸いた。警備、マスクはもちろんだが、賢島に住む土産物の売店の女性が仕